

っかり把握して、文を正しく理解すれば、おのずから **and** の結んでいるものもわかるのであるが、逆に **and** の働きを正確に理解させることにより、複雑な文の構文を把握するステップにしたいと考えるのである。

3 今後の課題

以上のようにして **and** に関しては生徒の理解状況が

大体つかめ、指導用例文集ができあがったので、今後これをもとに系統的指導を試みたいと考えている。又 **and** は生徒のつまづきの分析の第一歩でしかなく、今後、**or** や **but** 又それ以外のつまづきの要素についても分析、指導の工夫ができたらと思っている。それに対して御意見、御指導を承れたら幸いである。

(山田 雄一)

〔Ⅱ〕 入門期における日英語のずれに着目した指導例

1. 基本的な着眼点

学校教育における英語教育の本質的な姿を追求する場合には、学習者の側に立った動的なとらえ方が欠かせない。大脳生理学がすでに明らかにしているように、いわゆる〈言語習得の臨界期〉というものがあがり、10代の初期を境にして、新しい言語が大脳皮質に定着するための生物学的諸資質は柔軟性を失ってしまう。これは、言い換えれば、母国語が子供の大脳においてどっしりと根をおろし、母国語による理論的な思考や抽象的なものにとらえ方がいよいよ発展してゆくということでもある。学習者の側に立った動的なとらえ方は、このような生徒の言語能力の発達段階を考慮しながら、生徒の人間的な成長に働きかけうる教育の営みとして英語教育を考えてゆこうとするものである。母国語を使用しない英語教授法が提唱されてから久しいが、この立場からは、むしろ、生徒の母国語である日本語を積極的に評価し、生かそうとする。

このような立場に立って、この実践は、まず

(1) 英語教育を〈異質なもの〉の出合いの場

とみなすことから出発した。つまり、音韻面・文法面・語彙面など様々のレベルで相異なる日本語と英語という異質な言語体系のおつかり合い、さらに、その言語体系といくえにもからみあっている日本文化と英米文化のおつかり合いに焦点をあてたのである。〈日英語のずれ〉を意識させることは、生徒の言語感覚を鋭くすることにもつながってゆき、〈ずれ〉を発見するという学習は1つの重要な動機づけともなる。

また、この実践は、〈異質なもの〉への着目が

(2) 生徒の英語学習上のつまづきを解決することにつながる

という仮説的な期待によって支えられている。〈異質

なもの〉を単に意識しただけでは、知識として「日英語の差」を項目的におぼえこむ学習と大差がない。言語の教育としては、いったん英語の世界に入ったら、どこまでも英語の言語体系に働いている論理の流れに沿って英語が運用できることを目指さなくてはならない。そのことによって、言語運用面への効果を期待できると考えたのである。

この実践は、いままでに数多くの英語教師が試みてきたことと大きな差はない。また、新しい教授法を開発したわけでもない。ただ、上述したような問題意識を教師が抱き、そのような指導の下で、生徒たちが〈異質なもの〉を学習することの楽しさを感じるような機会をできるだけ多く与えているということなのである。

2. 基礎的研究

日本語と英語の出合いに焦点を合わせようとする立場からは、日英語の比較研究が必要となる。昨年度、日本人が英語を学習する際の困難点として出てくる日英語の相異点を、英語からながめた日本語の特質として、やや系統的に調べてみた。その結果を本校研究紀要第22集に発表したもので、参照していただきたい。

3. 中学1年生に対する指導の構想

学校教育の場で初めて英語に出合う中学1年生は、〈異質なもの〉の出合いをねらった実践に最もふさわしい学年である。そこで、宮田が中1を担当することになった時点で、次のようなことを念頭に置いて、系統的な指導を計画してみた。

ア) 英語の発音・語彙・語法・文構造を学習する過程で、なるべく日本語と比較させる。

イ) 日本語を英語に、英語を日本語にという「一対一の対応」に陥りやすい学習を排除して、自然な

日本語表現, 従って, 自然な英語表現を考えさせるようにする。そのための一方法として, 対話形式の導入を試みる。

ウ) 文化的・社会的側面にも光をあてる。

エ) <ずれ>の大きな言語的・文化的諸側面は, 適切な時期をとらえて, それを発見させ, 意識化させる。一方, 英語の枠組の中で運用力を高めるようにドリルを仕組み, 英語を話したり書いたりする上でのつまづきを実質的に解消してゆく。

オ) 適当な時点で「日本語と英語の違い」をまとめて, 学習内容を再確認する。

4. 実践の経過

(1)最初の授業

①ねらい

生徒が初めて英語の授業を受ける時点で, 生徒の学習意欲を適確にとらえるとともに, 英語学習を正しく方向づけすることを目標にして, 最初の5時間を次のようなことに使ってみた。

(ア) 英語学習歴の調査

- (イ) 英語と日本語の違いを意識させること
- (ウ) 授業の初めと終わりのあいさつの練習
- (エ) 「言語一般」について考えさせること
- (オ) 英語による自己紹介の練習
- (カ) アルファベットの発音とつづりの学習
- (キ) アルファベットの歌の練習
- (ク) 絵を利用した発音練習
- (ケ) 自分の名前を英語で書く練習

5時間の配分は, 概略, 次のようであった。

第一時 (ア)~(ウ) および(エ)への導入

第二時 (エ)~(オ)

第三時および第四時 (カ)~(ク)

第五時 (ケ); (カ)の書き方の復習・練習

このように, ごく普通に行われていることが多いが, <日英語のずれ>を意識させることをどのように具体化したのかを, ②の授業記録で紹介したい。なお, 英語の授業数は週4時間であり, 使用教科書は“New Horizon”である。

②第一時の授業記録 (1977. 4. 13第4限於中1A教室)

1 英語学習歴の調査

2 英語とはどんなことばか?

T
(教師)

英語はねえ, 大体ねえ, どんな風にきこえてくるかねえ。今からちょっと言うから, 聞いててよ。はじめて聞く人は何言ってるかわからんと思うけどね。

We don't know exactly how many languages there are in the world.

(笑い声)

C
(生徒全員または一部)
T

But it is estimated that there are around 3,000 languages ... (中略) ... they are both a means of communication and thinking.

何て言ったかわかった人?

C
T

.....

だいたいこんなこと言ったかなあ, とわかる人。いないか。うん, だんだんわかるようになるね。1年やって, 2年やって, 3年やって, だんだんやっていると, 今ぼくの言った英語が「あ, そうか, そうか」ってすぐわかるようになる。君たちも同じようなことをしゃべれるようになるな。一生懸命やろうね。

じゃあね, 今ぼくの話したことは英語ということばだ。ぼくたちが話していることは何ていうんだ?

C
T

(声をそろえて) 日本語。

日本語だね。日本語と英語とね, どちらがうだろう? (中略)で, その音がどう違うかということ, 今からみんなで調べてみたいと思うけどもねえ。たとえばねえ, 日本語で「カメラ」ということばがあるねえ。カメラ持ってる人, 手をあげて。

C
T

(手をあげる)

そういう人は, はい, おろして, このカメラという.....日本語かなこれ。これ英語か日本語か。.....うん? 何語? カメラっていうのは? カメラって何語かわかる人.....

和田

W
T

和製英語。

和製英語なるほどねえ。和製英語ね。日本人が作った英語ということか?

W
T

ちがう。日本人がねえ, 英語を聞いて直したの。

ああ, なるほどね。日本人が英語を聞いて直した。和製英語っていうのはちょっと違うな。うん, 君の言っているのは, たとえば「ナイター」とかね, ああいうのは和製英語っていわれるやつだ。けどね, 「カメラ」っていうのはそうじゃないんだね。けどもねえ, あの, 和田君が言ったように, 「カ

- メラ」ということは、これは英語の音を日本人が言いやすいように直したことばだな。で、書く時には、どういふので書く？日本語で書く時には……。
- C カタカナ。
- T カタカナで書くな。うん、そうだな。外来語っていうのはカタカナで書くようになってるけども、その「カメラ」という1つの日本語になった音と、もともと英語ではどう言われてたかというのを、今聞いてみよう。そうすると、音の違いというのがわかるなあ。日本語は「カメラ」。自分で言えるね、これは。英語の方は、こういうふう。
[kæməɾə] [kæməɾə] 何が違うこれ？ うん？何が違う？吉田！
- Y 音が違う。
- T 音が違う。(笑う)
- C (笑い声)
- T やっぱり違うんだな、これは。よく似たように聞こえるけれども、日本語の「カメラ」というのと英語の [kæməɾə] というのは違うねえ。まったく同じ音が使われているかという、どうもそうじゃないみたいだねえ。えー、それから、イギリスのねえ、女王の名前何ていうか知ってる？
- C (口々に) エリザベス。
- T うん、エリザベス女王だね。ちょっと日本語で、あの一、伊藤歌奈女さん、「エリザベス」って言うてみて。
- I エリザベス。
- T もう一度言うてみて。
- I エリザベス。
- T ぼくが言う、 [ilizəbəθ] もう一度！……(中略) ……一番最後の音を発音する時に、ぼくがどういふ口をしてるか、よく見とれ。
[ilizəbəθ]
- C (大笑い)

(このあと、[θ] という日本語にはないような音があること、アクセントがあることに注意を向けさせる。さらに、外人が日本語を話す場合に妙な言い方をすることから、イントネーションについて気づかせる。)

3 授業の初めのあいさつ；日英語の違い

“Good morning, class.” “Good morning, Mr. Miyata.” の導入と練習をする。そのあとで実際にやってみる。

- T じゃー、実際にやってみるからねえ。ぼくが入ってきたら、君たちは立つんだな。それでぼくが君たちに向かってあいさつするから、君たちはぼくに向かって言うんだぞ。いい？……本番3秒前。(いったん教室の外に出て、再び入室)
Good morning, class.
- C Good morning, Mr. Miyata.
- T よーし。Sit down. ……(中略) ……うん、そいつもやってみるからな。今度は日本語でやる。
(退室、再入室、生徒起立) おはよう。
- C おはようございます。(おじぎをしながら)
- T 今何した君たち？
- C 礼した。おじぎした。(あちこちで言う)
- T あー。はい。すわれ。日本語と英語の違いっていうのを最初に言ったけども、最初「音が違う」って言ったなあ。他に、今やったことから違うことがわかったねえ。…(中略) …おじぎするねえ。ことばというのはねえ、ただことばを違う人間がしゃべってるだけじゃなくてねえ、そのことばに関係してねえ、いろいろな習慣も、この、あるんだな。日本人は、特に先生と生徒という関係では、生徒の方がきちんとおじぎをして言うだろうねえ。その違いがあった。まだ違うなあ。……(中略) ……小島！
- K 英語では先生も生徒も同じことばを使うけど、日本語では、生徒は「おはようございます」って言う。
- T そうだなあ！……(以下略)

4 終わりのあいさつの練習

5 ことばについて

- T さきほどぼくが英語をいろいろしゃべった時に、あの、ほとんど全員がわからなかったけどもねえ、……(中略) ……どうして机を「ツクエ」と呼ぶのか、これはひじょうにむずかしい問題だからねえ、そんなことを考えてたら1日たっても3日たっても答えが出てこんからねえ、やめた方がいいと思うけどもねえ、でもねえ、どうして自分が日本語を話せるようになったのか、こいつは考えてみる価値があるし、だれかきつと答えを出してくると思うな。……(以下略)

6 まとめ：日本語と英語の違い

(次のようなことをまとめながら板書して終わる。)
生徒はノートに書く。

◎日本語と英語の違い

1. 音 ①1つ1つの音 ②音のきざみ方 (リズム) ③音調(イントネーション)
2. 同じ内容のことを違った音で表現する
3. 動作や習慣(例：おじぎ、敬語)

(2) 「日本語と英語の違い」の授業

日英語の差については平常の授業でも意識させ、それを定着するのに有効なドリルを組み込むように心がけているが、さらに、適当な時期にまとめをして再認識させている。教師側から差を指摘するのをできるだけ避け、生徒に発見させて発表させるようにしている。また、いくつかの差異に共通するような特徴を見出したり、大きな視点からとらえなおしたり、別の角度からながめたりするようなことに配慮している。

定期テスト後に1~2時間かけて行うことが多かったが、夏休み中の自由研究のためにカードによるまとめ方の指導も行った。次に示すのは、一学期中間テスト直後の授業において、テスト答案を返却して問題のポイント、正解例、共通する誤りの指摘などのあとで、約20分程の間に生徒から出された日英語の差である。

①疑問文・否定文の作り方が違う。

(日本語は最後のところで決まる)

②英語には a, an がある。

(英語では1つか、そうでないかを気にする)

③書き方が違う。

(ア)いろいろな符号 (イ)語順 (ウ)大文字・小文字の別 (エ)英語はアルファベット26文字、日本語は、ひらがな、カタカナ、漢字 (オ)英語は単語どうし分けて書く (カ)固有名詞は大文字で始める (キ)英語は横書き

④苗字・名前の順序

⑤日本語には、ていねいな語、女性語などがある。

⑥「はい、そうです」に対応する英語がいくつかある。(日本語では主語をはっきり言わないことが多い)

⑦sisterは姉にも妹にもなる。brotherも同様。

(かっこの中は教師のコメント)

(3)対話形式の和文英訳

3-1)で述べたように、対話形式の和文英訳の練習を導入している。次に示す例は、Lesson 15 終了後

の総復習の時に使ったものである。

- A: きみはポケットに何を入れているんだい?
B: ペンを2本さ。新しいペンと古いペンなんだ。
A: だれのだい?
B: 新しいペンはぼくのさ。古いのは父さんのだ。

問題の日本語と、それに対応する英文を比較してみればわかるように、日本語では、会話の行われている状況に多く依存して言語表現されることが顕著なために、主語ぬきの文など、省略されている部分が目立つ。日本語では日本語のそのような論理・習慣に従い、英文では英文なりの論理・習慣に従って表現するという学習を設定し、その中から言語運用力を高めてゆくということが、このような対話形式の練習を導入した一番のねらいである。つまり、英語における主語の明示(上例では I, they)、代名詞の使い分け、3人称単数の概念、複数の概念、冠詞の用法(上例では、特に the の使い方にねらいがあった)などが、英語の枠組の中で自然にできるようにという意図があり、ここに運用力を高めることへの1つの契機があると考えたわけである。なお、定期テストや休みの課題に出した問題を一部ここに示しておくことにする。

- A: ぼくには、兄さんがひとりと妹がふたりいるよ。
きみにも兄さんが(ひとり)いた?
B: ええ、いるわよ。健には兄弟が何人いるの?
A: 3人だよ。
B: あの男の子は健の弟さん?
A: ちがうよ。学の弟だよ。

(一学期末テスト)

- A: あの男の子はマイク?
B: ちがうよ。
A: だれなの?
B: トムさ。

(夏休みの課題の1つ)

- A: 健、あなた小鳥飼ってる?
B: うん飼ってるよ。2羽ね。
A: わたしはネコと犬を一匹ずつ飼ってるのよ。
ネコはとってもかわいいの。
B: 犬は大きいのかい?
A: そうよ。母は小さい犬を一匹欲しがってるわ。

(二学期中間テスト)

5. 実践の結果と今後の課題

<日英語のずれ>に着目して以上のような実践を試みたが、その結果がどのようなものになったかは、まだはっきりとしていない。とりわけ、言語意識・感覚の鋭敏化にどれだけ寄与したのか、あるいは、生徒の英語力の向上にどれだけ役立ったのかについては、それをどのようにつかんだらよいか暗中模索の状態である。生徒に作文を書かせてみたり、授業のアンケートを実施したり、比較テストを行ったりはしたが、生徒の反応がつかめる程度で、指導の効果を測定するようなものとはなっていない。たとえば、比較テストでは、二学期中間テストが終了した時点で、中1に対して出題した対話形式の問題（4-(3)の最後に示したものがその一部）を本校中2の生徒にやらせてみたが、その結果は、30点中、中1が13.41、中2が13.96という平均点であった。この数値にどのような意味を読みとったらよいのかは、明白ではない。

今後は、従って、英語学力にどのようにはねかえってくるのかについて研究を進める必要がある。また、現在のところ、指導自体が体系化されていないわけで、たとえば対話形式の和文英訳のような具体的な手法を工夫しなくてはならない。中学上級から高校にかけての指導についても検討しなくてはならない。

最後に、6月中旬に『英語を10週間習って』という題で生徒が書いた作文の中から1つ紹介し、結びにかえたい。（生徒の書いた原文のまま）

私たちは今までいろいろな単語または文章を学んできた。その中で私が、いちばん感じたことは、日本とアメリカの習慣のちがいだ。なぜ同じ世界で同じ人間でこのような違いがうまれてくるのだろう。ふしぎに思う。

次に感じたことはこのまま英語をもっと勉強して外人の友だちなんかつくって話など、できるといいなあと思う。このことは、はじめいったことにもつながるのだが、私はなぜ英語などならうのか、ふしぎだった。どうせならうなら世界各国のことばをならえばいいのと思っていたが今自分が、英語をならって始めて意味がわかった。それは、英語を通じてほかの世界、ほかの国まで考えをひろめ、ちがう習慣にほんの少しだが、ふれることによって1人1人の考えなどが広がるからではないかと私は感じている。

（宮 田 学）